# 光明寺裏山に里山自然観察コースをつくる活動

乙訓の自然を守る会
代表　宮崎　俊一　　京都府

（1）活動の目的

乙訓の自然を守る会は京都市西山地域における自然を調査し、保護する活動をおこない、また一般の人を対象に自然観察会をおこなっています。

当会は平成9年度には、貴タカラファーモニストファンドの助成をいただいて「京都西山の植物目録」を発行しました。発行にあたり私たちは、多くの人に自然の良さを知ってもらい多くの知恵で自然を守るという方針を立て、それ以降、従来以上に啓蒙活動、保護活動に力を入れてきました。

その一つとして現在　光明寺裏山に「里山自然観察コースつくり」をすすめています。もちろん地主に意義を訴え、協力を得ております。光明寺裏は市街地に近く、保育園や幼稚園、小学校の子供達の遠足コースであり市民の散策路です。そこに豊かな自然があることを知ってもらうことが目的です。具体的には①樹木に名札をつける②ここに棲息する貴重な蝶、オオムラサキ及びウラジロミドリシジミの解説板をたてる③自然観察マップ（パンフレット）の発行などです。

②③については貴タカラファーモニストファンドの助成をいただいて完成しましたので報告します。

（2）蝶の解説看板

ここに棲息する貴重な蝶、オオムラサキ及びウラジロミドリシジミの解説看板を立てました。(写真1，2)

これらの蝶を保護することを訴えるのはもちろんですがそれだけでなく蝶の棲む里山の環境を守ろうと訴えています。看板の冒頭には「**里山は農林業の生産の場ですが、その手入れされた環境が多様な生き物の生息環境を提供してきたのです。私たちは、この豊かな自然環境を守り、次の世代に引き継いでいきたいと思います。**」とのべています。

（3）光明寺周辺の里山観察地図

里山観察地図を発行しました。(写真3，4)

内容は、光明寺周辺を散策しながら付近で見ることのできる動植物を図解し、また里山が農林業で保全されてきたことを解説し、自然の仕組みを学んでもらえるようにしました。

最初に**里山が多様性を守ってきた**ことを解説。

「里山」というのは、山すその田畑と谷川（用水路）、ため池、雑木林の一帯をいいます。深い山奥の原生林より、人里に近い里山に多様な生き物が棲んでいます。

何千年前から私たちの祖先が開いてきた水田、そして燃料をとっていた炭焼きの雑木林が里山の生き物の多様性を守ってきたのです。

観察に出かけよう。何に出あえるかな。

次に**水田と雑木林の役割、大切さ**を解説

水田や用水路、ため池は人工の湿地であり湖沼です。そこにはトンボやカエルやサカナが繁殖します。メダカは夏は水田で過ごし、秋に川に下るという生活をしています。

農家は田畑のまわりを手入れするので、明るい空間ができます。さまざまな草花が育ち、多くの昆虫がきます。昆虫が多いから野鳥が集ま

り、ヘビやトカゲの爬虫類、ネズミやタヌキなど哺乳類もきます。

最近は農業の変化（機械化、農薬、コンクリート化）で生き物は減少しています。

昔は雑木林で炭を焼き、まきをとり、家具や建材の木材をとりました。また田畑の肥料にするために落ち葉をとりました。もちろんキノコや木の実、染色の材料など、雑木林の恵みを利用しました。

日本の山のかなりの部分は炭焼きの山でした。乙訓の山は千年前の平安の都の炭の大供給地でした。炭に適しているのがコナラで、コナラ林が今も多く残っているのは炭焼きのなごりです。炭焼きはコナラ林を切り倒しますが、切り株からひこばえ（傍芽）が出て10年もすると元の林に戻ります。そのくりかえしで明るい林が保たれ、多様な生き物の棲み家が保たれてきました。

次に雑木林の問題を提起

ほっておくと雑木林は変わる

炭焼きのコナラ林は放置するとアセビ、ツバキなど常緑の低木が繁り、暗い林になります。林が暗くなると草花が育たないだけでなくコナラなど落葉樹も育ちません。150年も放置するとクスやシイ、アラカシなど照葉樹の大木が繁る極相林になります。この移り変わりを遷移といいます。そして生き物の多様性は失われます。

明るい里山の雑木林は長年、人が手入れしてきたからです。極相林は山奥の原生林や、身近には神社や寺のまわりの鎮守の森に見られます。

雑木林を手入れしないと・・

1950年代に燃料は炭やまきからガスや電気に変わりました。それ以来、炭焼きの雑木林は放置され、暗い林になりました。また雑木林は大規模にスギ、ヒノキに変えられました。スギ、ヒノキ、タケの林は生産の場で大切にされていますが、そこには生き物は棲めません。

一方、西日本では放置された竹林が雑木林に進出し、山全体がタケに被われるという問題も出てきました。

雑木林を手入れしなければ多様な生き物の棲み家がなくなります。手入れは難しい問題ですが、今、全国あちこちでボランティアが地主や行政に働きかけ雑木林の手入れが始まっています。乙訓の自然を守る会も2001年から手入れをはじめました。

この里山自然観察地図は保育所、幼稚園、学校などで活用していただく予定です。地元の長法寺小学校では校長先生と話し合い、３年生の総合学習に活用していただくことになりました。

### （４）その他

樹木に名札をつける活動は約80枚をつけ、市民から評価をいただいております。

### （５）今後の計画など

今後はいっそうの啓蒙活動、調査活動、保護活動を続け観察コースを充実していきます。

#### １）里山の保全活動

春植物の群生地は炭焼き（コナラ林の伐採更新）で守られてきました。しかし炭焼きが途絶え、常緑樹やササに被われる所が増え、春植物が絶える所がでてきました。昨年から下草刈りで里山を保全する活動を続けています。

光明寺地域では田の畦や池の堤防の補強としてナラガシワ、クヌギを利用してきました。そこに蝶ウラジロミドリシジミが棲息していましたが農業の近代化で激減しています。山はスギ林が増え、また雑木林は手入れがされないため常緑樹が進出しナラガシワの幼樹が育ちません。私たちは01年初めから近くの雑木林を借り、常緑樹の伐採、ナラガシワ、クヌギなど植樹活動を続けています。またオオムラサキに必要なエ

ノキも植樹しています。

**2）ドングリ祭り**

秋に毎年、子供達とドングリにちなんだ祭りを続けています。今年は10回目です。ドングリひろいと植え付けをし、木の実や竹などで工作をします。

以上

写真１　蝶の解説看板　全景

写真２　蝶の解説看板　内容

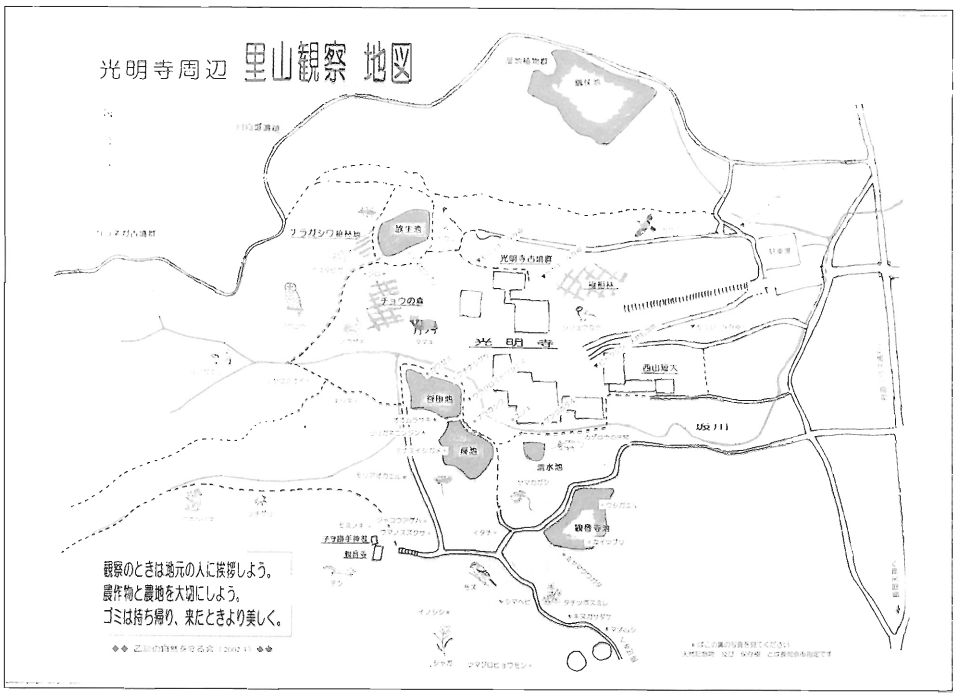


写真 3　里山観察地図

写真 4　里山の解説